恐れ乍ら書付を以て願上げ奉り候

一甲州道中台ヶ原・韮崎・教来石三宿一同願上げ奉り候趣は、穴山橋掛け方の儀、明和年中道中　御奉行所様へ宿助郷一同願上げ奉り候に付、穴山村御召出し仰付られ候趣は、其村方には高掛り免除も之れ有る間、以来橋高さ一丈三尺、橋幅八尺、橋台は木枠に石を詰め、其上に左右へ五間半宛つの石積みいたし、尚亦た其上へ水除けいたし候えば、容易に流失も之れ無く相保ち、諸往来差支え之れ無き様仰渡され候処、連々橋仕立て方未熟に罷成り、纔（わずか）の出水にも度々流失仕り、御通行御差支えに罷成り、又は降り繁き時節は小俣等出水仕り、橋前後にて荷物等おろし、馬士にて背負い越し候義、度々之れ有り候に付、猶又文化七午年右三ヶ宿一同にて、御代官中村八太夫様御役所へ願出で、右穴山御呼出し、御吟味の上、漸く明和年中御請通りに少しは似寄り候橋掛け渡し候え共、一体仕立て方甚だ手薄故、直様流失仕り、其れ已来は流失仕り候ても容易に掛け渡し仕らず、数度催促の上掛け渡し候橋、常水より高さ二・三尺、橋幅三尺位、長さ七・八間位にて、剰え仕立て方宜しからざる故、年内には四・五度宛つ流失仕り、尤も当年杯は夏中照り続き流失仕らず候え共、八月廿二日出水にて流失仕り候え共、橋掛け引延し仕り候に付、往来諸荷物旅人等に至る迄差支え、甚だ難渋仕り候故、度々催促に及び、漸く九月三日は往来にも之れ無き川上へ橋掛け渡し、野林を伐り明け、新に廻り道を附け候故、

諸木の切株大石等多分之れ有り、殊に韮崎・台ヶ原の間四里八丁、教来石迄は五里二十二丁之れ有り、遠継場故昼過ぎより附出し候人馬、夜分通行仕り候故、躓き足を痛め、御箇（荷カ）物等破し候儀侭之れ有り、又は旅人道に迷い難儀仕り候、然る処右村は享和年中の頃、橋掛け替えの間、旅行の方々御差支え之れ無きため、渡舟の儀道中御奉行所様へ御願い申上げ候処、御聞き済の上渡舟仰付られ、既にに御高札迄も頂戴仕り、其頃一両年は渡舟相見え候え共、其後一向差出し申さず、諸家様御通行御差支えに罷成り候故、拠（よんどころ）無く台ヶ原宿の地先き花水橋を越え、原路廻りを継送り候え共、橋仕立て方是れ又手薄す故流失仕り、度々御差えに罷成り候も、竟畢穴山村にて御免除の程も相弁えず、旅人往来の難儀を顧みず、道橋普請等勝手に任せ、仮橋にも相劣り候疎成る橋毎度掛け渡し、度々流失仕り候ても、渡舟差出さず候に付、旁以て、三宿一同御用御継立て差支え必至と難儀仕り候間、何卒格別の御慈悲を以て、明和年中以来御請通り橋掛け渡し、前後道筋取繕い仕り、右橋流れ仕り候はば直様渡舟差出し候様、仰付けられ下し置かれ候はば、御用御継立て諸家様御通行差支え無く、三宿一同相助かり、広太の御慈悲と挙げて有難き仕合せに存じ奉り候。余は御尋ねの節恐れ乍ら口上を以て申上げ奉るべく候。

恐れ乍ら書付を以て願上げ奉り候

一甲州道中台ヶ原・韮崎・教来石三宿一同願上げ奉り候趣は、穴山橋掛け方の儀、明和年中道中　御奉行所様へ宿助郷一同願上げ奉り候に付、穴山村御召出し仰付られ候趣は、其村方には高掛り免除も之れ有る間、以来橋高さ一丈三尺、橋幅八尺、橋台は木枠に石を詰め、其上に左右へ五間半宛つの石積みいたし、尚亦た其上へ水除けいたし候えば、容易に流失も之れ無く相保ち、諸往来差支え之れ無き様仰渡され候処、連々橋仕立て方未熟に罷成り、纔（わずか）の出水にも度々流失仕り、御通行御差支えに罷成り、又は降り繁き時節は小俣等

纔（わずか）の出水にも度々流失仕り、御通行御差支えに罷成り、又は降り繁き時節は小俣等出水仕り、橋前後にて荷物等おろし、馬士にて背負い越し候義、度々之れ有り候に付、猶又文化七午年右三ヶ宿一同にて、御代官中村八太夫様御役所へ願出で、右穴山御呼出し、御吟味の上、漸く明和年中御請通りに少しは似寄り候橋掛け渡し候え共、一体仕立て方甚だ手薄故、直様流失仕り、其れ已来は流失仕り候ても容易に掛け渡し仕らず、数度催促の上掛け渡し候橋、常水より高さ二・三尺、橋幅三尺位、長さ七・八間位にて、剰え仕立て方宜しからざる故、年内には四・五度宛つ流失仕り、尤も当年杯は夏中照り続き流失仕らず候え共、八月廿二日出水にて流失仕り候え共、橋掛け引延し仕り候に付、往来諸荷物旅人等に至る迄差支え、甚だ難渋仕り候故、度々催促に及び、漸く九月三日は往来にも之れ無き川上へ橋掛け渡し、野林を

往来にも之れ無き川上へ橋掛け渡し、野林を伐り明け、新に廻り道を附け候故、諸木の切株大石等多分之れ有り、殊に韮崎・台ヶ原の間四里八丁、教来石迄は五里二十二丁之れ有り、遠継場故昼過ぎより附出し候人馬、夜分通行仕り候故、躓き足を痛め、御箇（荷カ）物等破し候儀侭之れ有り、又は旅人道に迷い難儀仕り候、然る処右村は享和年中の頃、橋掛け替えの間、旅行の方々御差支え之れ無きため、渡舟の儀道中御奉行所様へ御願い申上げ候処、御聞き済の上渡舟仰付られ、既にに御高札迄も頂戴仕り、其頃一両年は渡舟相見え候え共、其後一向差出し申さず、諸家様御通行御差支えに罷成り候故、拠（よんどころ）無く台ヶ原宿の地先き花水橋を越え、原路廻りを継送り候え共、橋仕立て方是れ又手薄す故流失仕り、度々御差えに罷成り候も、竟畢穴山村にて御免除の程も相弁えず、旅人往来の難儀を顧みず、道橋普請等勝手に任せ、仮橋にも相

諸家様御通行御差支えに罷成り候故、拠（よんどころ）無く台ヶ原宿の地先き花水橋を越え、原路廻りを継送り候え共、橋仕立て方是れ又手薄す故流失仕り、度々御差えに罷成り候も、竟畢穴山村にて御免除の程も相弁えず、旅人往来の難儀を顧みず、道橋普請等勝手に任せ、仮橋にも相劣り候疎成る橋毎度掛け渡し、度々流失仕り候ても、渡舟差出さず候に付、旁以て、三宿一同御用御継立て差支え必至と難儀仕り候間、何卒格別の御慈悲を以て、明和年中以来御請通り橋掛け渡し、前後道筋取繕い仕り、右橋流れ仕り候はば直様渡舟差出し候様、仰付けられ下し置かれ候はば、御用御継立て諸家様御通行差支え無く、三宿一同相助かり、広太の御慈悲と挙げて有難き仕合せに存じ奉り候。余は御尋ねの節恐れ乍ら口上を以て申上げ奉るべく候。